

# 小樽港 だより

発行：小樽港貿易振興協議会 (Otaru Port Sales Promotion Association)

2023 年  
No.22

## フェリー航路 アフターコロナへの取組

(運航会社：新日本海フェリー株式会社)



小樽～新潟航路で運航している「らべんだあ」

新日本海フェリー株式会社では、小樽・苫小牧東と舞鶴・敦賀・新潟・秋田を結ぶフェリーを運航しております。GWの予約も始まり、多くのお客様からご予約を頂いております。

2020年と21年は全国的な新型コロナウイルスの感染拡大により観光客が減少し、旅客輸送を中心にフェリー業界にも大きな影響が出ました。

現在は、旅客輸送が回復傾向にあり、コロナ禍前の平均と比べても8～9割まで戻っている状況です。

今後は落ち込んだ旅客需要を活性化させるため、SNSを活用したPRを更に進めるとともに、コロナ禍で中止を余儀なくされていた船内イベントの復活やインバウンドの獲得にも再び力を入れていく方針です。

また、貨物輸送については、コロナ禍1年目の2020年は減少したものの、2021年は回復し、現在は、ほぼ例年並みに戻っており、荷主の皆様のご環境意識の高まりや、ドライバーの時間外労働の上限規制強化でトラックによる長距離陸送が難しくなる「2024年問題」などを背景にモーダルシフトの機運が高まっています。

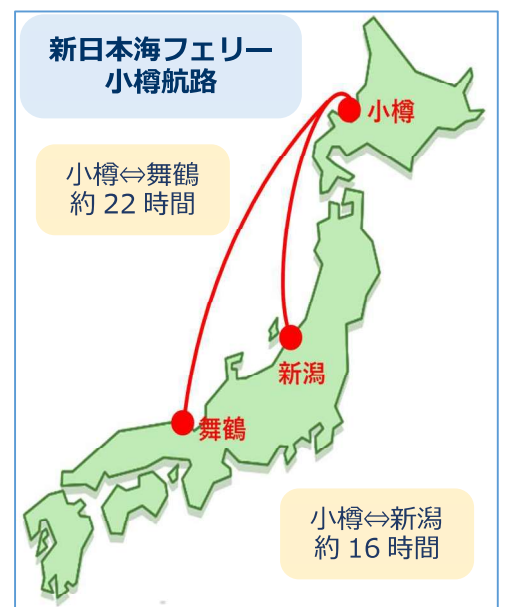
フェリー輸送は環境にも優しく、CO2排出量がトラック陸送と比べて約5分の1程度と言われており、有人車が長距離フェリーを利用することにより、乗船中にドライバーの休息時間を確保できるほか、交通事故リスクの回避やガソリン消費量を抑える事が出来るなどのメリットがあります。

しかし、最終的にはトレーラーによる無人航送でドライバーの人手不足の解消や働き方改革に繋げていけることが理想です。このため、北海道航路では既に無人航送が9割近くとなっておりますが、この動きを更に加速していきたいと考えております。

フェリーの認知度はまだ高いとは言えませんが、営業活動を通じて雑貨や宅配荷物などの輸送を取り込んでいきたいと考えておりますので、皆様のご利用をお願い申し上げます。

### 【小樽発着 運航ダイヤ】

小樽発 → 新潟着 月～土 17:00 発 → 翌 09:15 着	小樽発 → 舞鶴着 毎日 23:30 発 → 翌 21:15 着
新潟発 → 小樽着 火～日 12:00 発 → 翌 04:30 着	舞鶴発 → 小樽着 毎日 23:50 発 → 翌 20:45 着



# 小樽～中国定期コンテナ航路 航路改変

(運航会社：神原汽船株式会社 小樽港代理店：ノーススター トランスポート株式会社)

平素は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。  
ます。

2022年は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、上海ロックダウンなど不測の事態が起きました。

このような状況ではありましたが、小樽港でのコンテナ貨物は、おおむね2021年と同様の取扱量で推移することが出来ました。これもひとえに荷主企業の皆様の変わらぬご支援と港湾関係者の方々のご協力によるものであり、心より感謝申し上げます。

弊社のサービスは中国主要港（上海・大連・青島・天津・寧波）から日本地方港11港へのダイレクトサービスとなっております。

2022年は大規模な航路改変を行い、小樽港については上海・大連・青島との直航サービスとなっておりますが、今回の改変に伴い輸出は上海のみとなりました。しかし、輸入については以前はスペースが逼迫しておりましたが、余裕を持たせることが出来るようになりました。

また2022年に新造船6隻を投入し船隊全7隻を自社船とし、新造船についてはEEDI(エネルギー効率設計指標)フェーズ3に適合しており、従来船よりCO2排出量を約14%削減しております。

【小樽港発着航海日数】		
	輸入	輸出
上海	6日	4日
大連	9日	-
青島	8日	-

弊社は国際海上輸送を通じて「地域の活性化と経済の発展」をめざして荷主企業の皆様や地元自治体及び港湾関係者の方々にとってなくてはならない存在であり続けたいと考えております。

本年についても引き続き弊社の小樽港におけるサービスの安定・普及に取り組んでいく所存でおります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



コンテナ船の荷役作業

## 小樽港セミナー・小樽港貿易振興懇親会

官民が連携して小樽港の利用促進に取り組んでいる当協議会では、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止してきた東京地区と札幌地区の小樽港セミナーと懇親会を3年ぶりに開催しました。

セミナーでは、今後の小樽港の目指すべき姿として2020年12月に策定した「小樽港長期構想」について、主に物流関連の基本目標や将来プロジェクトについて説明を行いました。

また、セミナーに続いて開催された懇親会には、多くの皆様にご参加いただきました。



東京地区小樽港セミナー

※「小樽港長期構想」の内容は小樽市のホームページ (<http://www.city.otaru.lg.jp>) でご覧いただけます。



# 北海道日本海側における穀物基地の形成

小樽港では、古くから食用小麦や飼料原料であるトウモロコシなどの受入港となっており、現在も穀物類は主要な取扱貨物となっております。

臨港地区内には、大型サイロや低温倉庫などの保管施設が集積しており、原材料を製粉工場や飼料工場に供給しています。



穀物船の荷役作業

「小樽港長期構想」では将来プロジェクトの一つとして「北海道日本海側における穀物基地の形成」を位置づけ、大型化している穀物船への対応や保管施設等の再配置による効率化などにより穀物取扱機能の強化を図り、道央圏に位置する災害リスクの少ない日本海側の優位性を生かした、北海道の食品産業や畜産を支える穀物供給拠点、また、大規模災害時の穀物備蓄基地としての発展を目指していくこととしています。

## 小樽運河竣工100年

小樽運河は1914年に着工し、1923年に完成した小樽港の港湾施設で、今年で竣工100年を迎えます。内陸を掘込んで築造した運河ではなく、海岸の沖合を埋め立て築造したもので完成当時は全長1,320m、全幅40mありました。

当時、運河沿いには石造り倉庫が建ち並び、港内に停泊した貨物船と運河の間には「はしけ」が往来し、港湾荷役が行われており、運河は、この「はしけ荷役」を行うための施設として整備され利用されていました。

その後、小樽港でも岸壁整備が進み、貨物船が直接ふ頭に接岸して行う荷役が主流となり、運河を利用した「はしけ荷役」は減少していきました。

1966年には、自動車の交通量増大により、市内を通る一般国道5号で交通渋滞が慢性化し、それを解消するために、運河の一部を埋め立てる道路整備が計画されましたが、1970年代に入り、運河以南のこの道



昭和初期の小樽運河

路整備区域で石造り倉庫が壊されていく様子を見た市民の間から、運河及び石造り倉庫群の保存を求める運動がおこり、やがて全国的に小樽運河を「保存か、埋め立てか」という論争になりました。

この論争は、10年にわたって続けられ、最終的に両者の意見の折衷案に落ち着き、臨港線沿い区間で運河の半分(20m)を埋め立てし、道路と遊歩道が造られ、小樽観光の代表的な風景である「運河とその周辺」の景観が誕生しました。



現在の小樽運河

# 小樽港へのクルーズ船寄港再開

2022年は、約3年ぶりにクルーズ船の小樽港寄港が再開しました。7月に「ぱしふいっくびいなす」が寄港し、8月下旬から9月上旬にかけては「にっぽん丸」による小樽港発着クルーズ「飛んでクルーズ北海道」が実施され、日本船が計6回寄港しました。

コロナ禍で寄港中止が続いていた小樽港でも、ようやくクルーズ船を迎えることができ、寄港を待ち望んでいた市民にとっても、大変喜ばしい年となりました。



ぱしふいっくびいなす



にっぽん丸

2023年は「にっぽん丸」の「飛んでクルーズ北海道」が5回実施されることが発表されている一方、「ぱしふいっくびいなす」が、2022年12月27日出発のクルーズをもって運航を終了することとなりました。

「ぱしふいっくびいなす」には毎年小樽港へ寄港していただくなど、小樽市民にとっても親しみのあるクルーズ船であり、残念なニュースとなりました。

また、2022年11月に、国土交通省より国際クルーズの受入を再開することが発表され、2023年3月以降、国内各港への寄港が再開しております。

小樽港でも既に外国船の寄港打診を受けておりますので、関係団体と連携し、引き続き安全・安心なクルーズ船の受入に向けて取り組んでまいります。

このほか、第3号ふ頭では、岸壁の改良工事を始めとした大型クルーズ船の受入環境整備を進めており、整備後は14万トン級のクルーズ船の受入が可能となりますが、2023年は、整備の一環として実施してきたクルーズ船ターミナルの整備が完了し、4月以降供用を開始できる予定です。

これらに加え、第3号ふ頭基部では、イベント広場を含む緑地整備を行うとともに、民間の観光商業施設が建設されるなど、港周辺のにぎわいの創出に向けた取組を進めております。



第3号ふ頭及び周辺地区の整備イメージ図

## 小樽港貿易振興協議会 (O P S)

〒047-0007 小樽市港町4番2号 TEL(0134)23-1107 FAX(0134)23-1109 小樽市産業港湾部港湾室内

【E-mail】 [kowan@city.otaru.lg.jp](mailto:kowan@city.otaru.lg.jp)

【ホームページ】 <http://www.city.otaru.lg.jp>

※当協議会に対するご意見・ご要望、また、各種情報等がございましたら、上記までご連絡くださいますようお願いいたします。